

経営比較分析表／団体全体（令和5年度決算）

福井県 若狭町

【事業概要】

業種名	業種名	現在配水能力(合計)($\text{m}^3/\text{日}$)	類似団体区分	施設数	1日平均配水量(m^3)
法適用	工業用水道事業	2,600	極小規模	1	156
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	給水先事業所数	契約水量($\text{m}^3/\text{日}$)	管理者の情報	
-	94.9	7	655	非設置	

グラフ凡例

■ 当該団体値（当該値）
— 類似団体平均値（平均値）

【】 令和5年度全国平均

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

①H28年度の大口契約企業の撤退により、経常収支比率が100%以下となり、R4年度は80%程度まで回復したが、R5年度は修繕費の増加などで5.17%減少し74.51%となった。また、R5年度より累積赤字となり、累積欠損率比率は13.62%となった。今後同様に推移していくものと予想される。
③流動比率は類似団体平均、全国平均のいずれよりも高く、前年と比較すると流動負債の減により増加した。
⑤料金回収率は50%程度で推移しており、類似団体平均を大きく下回っている。適切な料金収入の確保が必要である。
⑥年間総有取水量の大幅な減少により給水原価が高くなっている。
⑦⑧施設利用率は長年低いことや契約率の低下から、施設更新時はダウンサイジングが必須である。

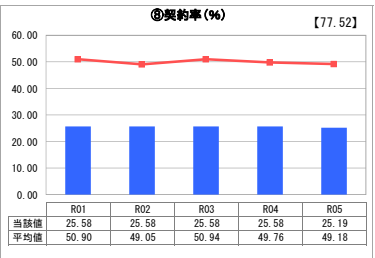
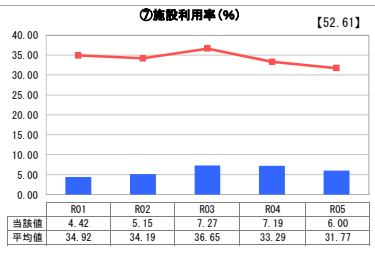
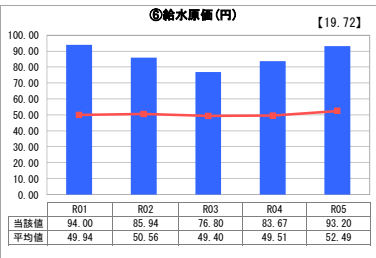
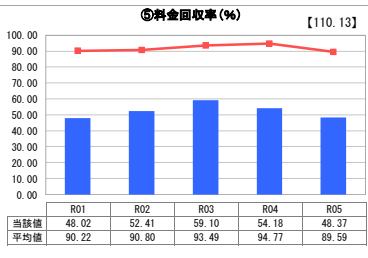
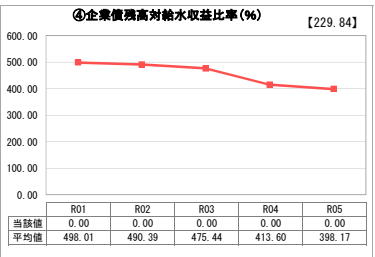
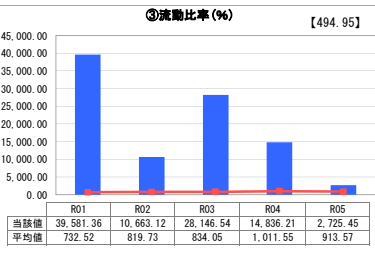
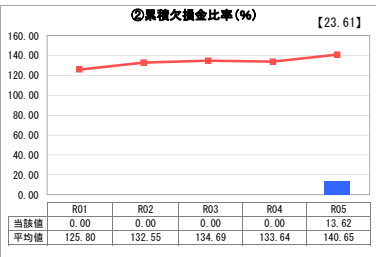
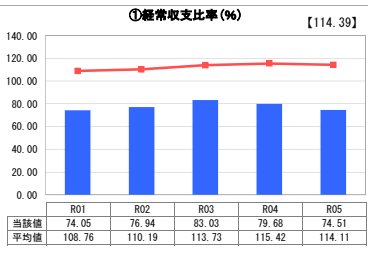
2. 老朽化の状況について

H4操業開始で管種もダクタイル鋳鉄管のため、①有形固定資産減価償却率は全国平均値と同程度である。また同様に、管路は耐用年数を迎えていないため、②管路経年比率、③管路更新率ともに0%となっている。
今後、施設の大規模更新時期を迎えることが予想されるが、計画的に実施し、費用負担の平準化を計らなくてはならない。

全体総括

比較的新しい事業であるため、管路等耐用年数に達していないものの、現状の経営状況では更新投資等にあてる財源の確保も難しいと思われるため、今後の企業動向を注視しながら需要量を精査し、積極的なダウンサイジングの実施を行わなくてはならない。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況

